

南大会 東胆振3校に期待

高校野球3日開幕 戦力分析

札幌岡山球場で3日に開幕する夏の高校野球北海道大会に、室蘭支部からは東胆振の3校が出場する。苫中央はプロ注目の左腕根本、駒大苫小牧は力強い投球が持ち味の北嶋を擁し、両投手の出来が鍵を握る。鶴川は「つなぐ野球」を徹底する強力打線が強みだ。支部大会での戦いぶりから3校の戦力を分析する。(竹田菜七)

苫中央は準決勝、代表決定戦を1人で投げ、いずれも完封した根本(3年)がチームをけん引する。進決勝の道楽戦ではプロ球団のスカウトも見守る中、球場表示で150キロを記録。本人は「誤計測でしょう」と淡々と話したが、その後も140キロ台を連発。代表決定戦の苫工戦は左肩痛で本調子ではなかったが、緩急

をつけた投球で14三振を奪い被安打2に抑え込んだ。一勝つていくにつれてチームが一致団結している」と主将の高橋(3年)が語るように打線も試合を重ねるごとに調子を上げ、代表決定戦では11安打を放った。根本を支援できるような北海道大会までの期間はフリー打撃や試合形式の練習を行い、頂点を目指す。

駒大苫小牧もエースの右腕北嶋(3年)を中心としたチーム。代表決定戦の道楽室蘭戦では、九回にこの口最速タイの145キロを3球連続で記録して周囲を驚かせた。冬場に投げ込みを重ねて培ったスタミナを生かし、被安打2、14奪三振で完封勝利を取めた。佐々木監督によると北嶋はストイックな性格。1人で黙々と練習に打ち込み、背中でチームを鼓舞する。監督は「優勝まで引っぱり張ってほしい」と信頼を寄せた。

南大会1回戦で苫中央は知内、駒大苫小牧は札新川と対戦する。ともに勝ち上がれば、5日の2回戦で直接対決となる。注目カードとなりそうだ。

鶴川打線は捕手で4番の佐々木隼(3年)が好調だ。支部大会2試合で5打点を挙げており、捕手としてはエース稲葉(3年)が「彼を信じて投げた」と振り返るなど、投手陣を好リードで支え、攻守に貢献した。稲葉は要所を押しさえる粘り強い投球で西川(2年)につなぎ、2投手の継投で支部大会2試合を無失点に抑えた。攻撃では犠打で確実に走者を進め得点につなげる場面が目立ち「つなぐ」意識がチームに浸透している。

苫中央

プロ注目の左腕根本がけん引

駒大苫小牧

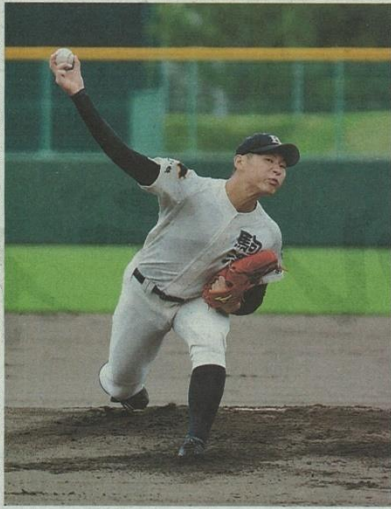
主戦北嶋 背中でチームを鼓舞

鶴川

つなぐ意識浸透 強力打線強み



苫工戦で完封した苫中央のエース根本(3年)



道楽室蘭戦で完封した駒大苫小牧のエース北嶋(3年)